

JCMA 関西

Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 秋号

巻頭言



特集

通常総会



建設機械施工
管理技術検定試験
建設技術展・
ふれあい土木展のPR

合同見学会
災害対策講習会



新入会員
支部行事報告
編集後記

01 巻頭言

「技術革新を支えるのは人である」

02 特集

「西尾レントオール

R&D国際交流センター(大阪咲洲)」&
「5G X LAB OSAKA(大阪ATC内)」の見学

03 総会報告

04 合同見学会

05 災害対策講習会

06 建設機械施工技術検定試験

07 建設技術展・ふれあい土木展のPR

08 新入会員

09 関西支部行事報告

10 新規広報部会員紹介・編集後記

125
Autumn
2026

技術革新を支えるのは人である

～インフラDX時代の人材育成に向けて～

近畿地方整備局 近畿技術事務所長 矢野 公久



建設業界は今、大きな転換期を迎えています。

激甚化・頻発化する自然災害への対応、高度経済成長長期に整備されたインフラの老朽化対策、担い手不足への対応、さらには働き方改革の推進など、建設業界に携わる私たちを取り巻く課題はますます複雑化しています。

その一方で、ICT 施工やBIM/CIM、遠隔施工、自動施工をはじめとするデジタルデータを活用した技術は急速に進歩し、建設生産システムそのものが大きく変わろうとしています。国土交通省が推進するインフラDXやi-Construction2.0の取組は以前にも増して加速し、建設現場の生産性向上や省人化の実現も夢ではありません。

しかし、どれほど技術が進歩しても、その技術を活用し、現場で価値へと変えていくのは「人」です。そういった観点から、これからの建設業界において最も重要な課題は人材育成であろうと考えます。

建設機械はますます高度化し、発注や施工管理は二次元から三次元へ、さらにデータに基づくマネジメントへと変化しています。これまで培われてきた施工経験や現場力に加え、ICTやデータ活用に関する知識と技術が求められる時代となりました。

一方で、デジタル技術だけでは良い社会資本は整備できません。現場を理解し、安全を確保し、地域や住民の視点を持ちながら判断できる技術者がが必要です。

これから求められるのは、デジタル技術と現場力の双方を備えた人材です。

近畿技術事務所では、このような人材育成を重要な使命として位置付けています。

その中核となるのが、令和3年に開設した「近畿インフラDX推進センター」です。

センターでは、ICT施工、BIM/CIM、無人化施工などの最新技術を学ぶことができる環境を整備し、国や自治体の職員、民間企業の技術者を対象とした実践的な講習会を実施しています。単に知識を学ぶだけではなく、実際にICT建設機械や各種ソフトウェアに触れながら、現場で活用できる技術を体得できることが大きな特徴です。

また、人材育成の対象は現役技術者だけではありません。

将来の建設業界を担う若い世代に、建設技術の魅力や可能性を伝えることも重要な役割であると考えています。近畿インフラDX推進センターでは、大学生や高等専門学校生、高校生を対象とした体験学習や施設見学も積極的に受け入れており、建設機械やデジタル技術に触れる機会を提供しています。次世代を担う若者たちが建設分野に夢や希望を持てるよう、建設業界に携わる全員が一体となった取組を進めていかなければなりません。

近年、建設機械施工の世界では、自動化や遠隔化に関する技術開発が目覚ましいスピードで進んでいます。しかし、そのような時代だからこそ、人材への投資が一層重要になると感じています。技術革新の速度が速い時代においては、新しい技術を学び続ける力、自ら課題を見つけ解決する力、異なる分野の人々と連携する力が求められます。

人を育てることは、一朝一夕で成果が現れるものではないと実感しています。しかし、人材育成こそが建設産業の未来を支える最も確実な投資であり、安全で持続可能な社会基盤整備につながるものと確信しています。

一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部におかれましては、これまでも建設機械施工技術の普及や技術者育成に大きく貢献されてこられました。建設機械施工分野のさらなる発展のためには、行政、企業、教育機関、関係団体が連携し、人材育成の輪を広げていくことが不可欠です。

近畿技術事務所も、インフラDXを支える人材育成拠点として、また建設機械施工技術の発展を支える技術支援拠点として、協会員皆様とともに歩んでまいりたいと考えています。

技術の進歩を支えるのは人であり、未来を創るのもまた人です。

建設機械施工に携わる協会員の皆様とともに、次代を担う人材を育み、魅力ある建設産業の未来を築いていきたいと考えております。

見学

「西尾レントオール R&D 国際交流センター」(大阪咲洲) 「5G X LAB OSAKA」(大阪ATC内)

1. 開催概要

日 時：2026 年 8 月 20 日 (木)

主 催：JCMA 関西支部 広報部会

目 的：最新の木造建築技術および建設機械の遠隔化・自動化ソリューションの現地見学

見学先：西尾レントオール R&D 国際交流センター (大阪市住之江区咲洲)

5G X LAB OSAKA (大阪 ATC 内・ORAM 株式会社)

2. 見学内容

①西尾レントオール株式会社

咲洲 R&D 国際交流センター見学!!

今回の特集は、広報部会員でおこなっている「訪ねてシリーズ」で、大阪市の咲洲にある施設を2ヶ所ご紹介させていただきます。

「訪ねてシリーズ」は、最新の技術や DX (デジタルトランスフォーメーション) など建設業界に関わる施設や展示会等を日本建設機械施工協会 関西支部 広報部会員である JCMA 関西の編集部が見学や体験をして、記事にさせて頂いている企画です。

まず1つ目に訪れた施設は、大阪メトロ 中央線のコスモスクエア駅より南東へマンション群のペデストリアンデッキを歩いて徒歩5分、西尾レントオール株式会社様咲洲 R&D 国際交流センターへ訪問しました。

総合レンタル業のパイオニアとして大阪発祥の西尾レントオール株式会社様 (本社 大阪市中心部) が、2023 年3月末に竣工し2023 年7月よりオープンさせた施設になります。

敷地面積は A 棟・B 棟合わせ約 33,000 平方メートルで約サッカーコート4面分の広さとなっております。

「R&D」とは、Research and Development の略で「研究開発」を意味しております。



咲洲 R&D 国際交流センター A 棟



咲洲 R&D 国際交流センター B 棟

咲洲 R&D 国際交流センターで「シェアリング・ソリューション」を進化させる技術開発や実証実験。

レンタルサービスの「質」を向上させる。

産官学、スタートアップとの連携により「オープンイノベーション」を促進させる。

このような役割を担っている施設となっております。



AI案内サイネージ



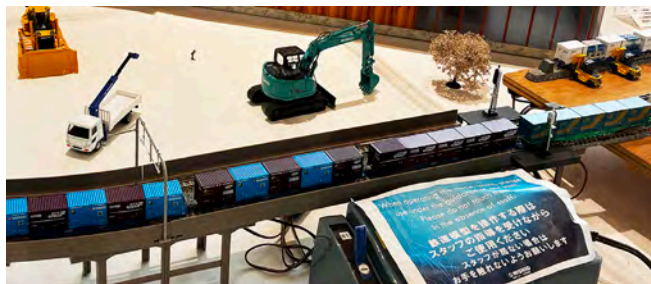
執務室エントランス



仁淀川町 間伐材



宮崎県 間伐材



鉄道模型ジオラマ

A 棟は 5 階建てで、執務室に加え研究開発施設、研修施設、宿泊施設、パブリックスペース N ラウンジを併設し、B 棟は 2 階建ての執務室と倉庫棟です。

施設全体の外周には数万本の植栽を施しており地域の景観にも配慮している施設となっております。

A 棟の N ラウンジではカフェスペースとしてスタートアップの支援を実施、日替わりでカフェのオープンを目指す方へキッチン等を提供しております。

また、ラウンジ内の什器もイベントで使用しているレンタル商材などを活用しており地域や訪れた方達の憩いの場として平日（月～金）の 9：00～17：00 は、一般開放しております。



N ラウンジ



N ラウンジ

レンタル商材以外でもパートナー協定をしている、高知県仁淀川町や宮崎県の間伐材を使ったインテリアも展示し SDGs への取り組みを紹介しております。

見学当日は夏休み期間中ということもあり、周辺地域の小中学生が友達と一緒に勉強する風景も見ることが出来ました。

子供達に対する犯罪も多いこともあり、企業の社員が近くにいる環境は、地域の防犯上にとっても貢献しているのではないかと感じます。

他にも週末にはイベントを開催していることもありますので咲洲エリアへご訪問の際は是非ご利用下さい。



研修施設



宿泊施設ラウンジ

A 棟にはその他にも研修施設として最大 200 名収容の研修室など大・小の会議室もあり、宿泊施設も見学させて頂きました。

R&D 国際交流センターの施設棟に併設している大きな木造の建物があります。

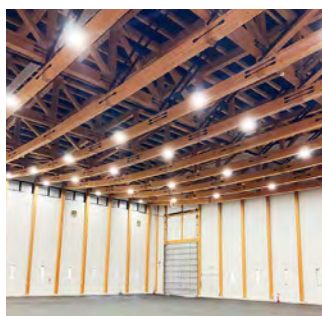
木造モジュールという移設・転用が可能な木造建築施設、通称「モリーナ」規格化された木材をオリジナルの金物で支える技術によって構成されており、柱の無い大空間、モジュール化による組みバラシ、転用を実現しております。



モリーナ・Kibaco

入口からの奥行きが33mで横幅が38m、高さが12mで面積は1,356平方メートル。一般的な体育館の大きさぐらいで横幅は最大60mmで可能な建築物です。

躯体には国産杉を使用しCLTパネル（クロス・ラミネート・ティガー）で構成されており、国内最大級の無柱空間となっております。ダンスイベントや地域のイベントなどでも活用し、昨年開催された大阪・関西万博ではイタリア館・フィリピン館・インドネシア館の、海外パビリオンや万博会場内の案内所などでも同じ工法が採用されております。



モリーナ内

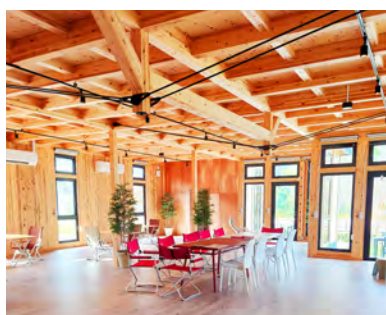


モリーナ外観

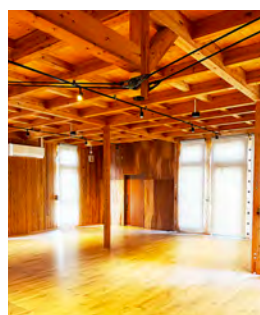
転用可能なことから木造の倉庫として営業所やセンターで建築しSDGsやカーボンニュートラルに貢献。

「モリーナ」の隣には事務所スペースとして設置している「Kibaco」があり、木造モジュールのユニット化で1スパン単位での組立が可能な施設です。

1スパンは3.6m×3.6mの組合せで拡張でき、2階建てまで建築が可能となります。



Kibaco内



Kibaco内

咲洲 R&D 国際交流センターから、大阪府咲洲庁舎・ATC（アジアトレードセンター）へ向かう途中にペDESTリアンデッキを設置しており、コスモスクエア駅よりATCまでは、デッキの上を安全に歩くことができます。

デッキの途中にはNラウンジもありますので、疲れた際にはラウンジで休憩。オシャレなカフェで「ほっと一息」をオススメします。



ペDESTリアンデッキ風景

②「5G X LAB OSAKA（大阪 ATC）」の見学 （ORAM 株式会社）



ATC 5G X ラボ エントランス

西尾レントオール株式会社様咲洲 R&D 国際交流センターを見学後、大阪アジア太平洋トレードセンター（ATC）内にある、5G 技術の検証や最先端技術の体験空間「5G X LAB OSAKA」へ移動。ORAM 株式会社様より、建設機械の遠隔化・自動化ソリューションについての説明およびデモ展示の見学を行いました。

大阪市では公益財団法人 大阪産業局、ソフトバンク株式会社等と連携して、令和2年10月にソフト産業プラザ TEQS 内に 5G X LAB OSAKA を設置し、5G 等の先端技術を使った新事業の創出を支援してきており、5G X LAB OSAKA に新たに「テック・ラボ・コーナー」を設置し、令和7年8月18日から運用を開始されております。

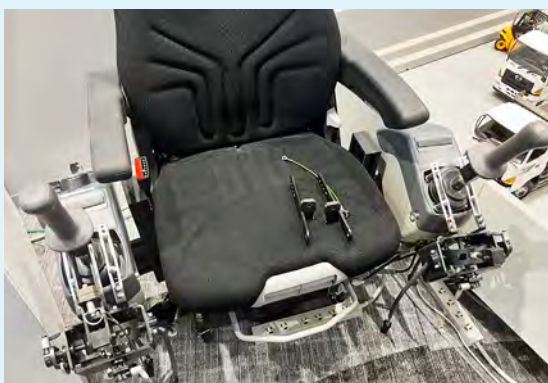
テック・ラボ・コーナーでは、「咲洲テック・ラボ・プログラム」の支援の一環として実施するもので、採択された企業の製品・サービスを展示し、来場者に仮想ユー

ザーとして体験することで、製品の改善や協業へとつなげております。

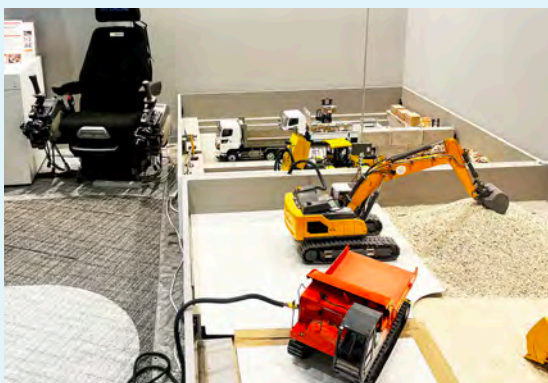
常に最新の技術が展示されており、様々な技術の体験が可能です。今回、特に建設業に関係する技術を紹介します。

◇遠隔自動化 後付けキットについて

- ・既存の建設機械などのレバーに軽量小型のロボット装置を取り付けることで、メーカーや機種を問わず遠隔操縦を可能にする「レトロフィット型」のシステムについて解説を受けました。



「レトロフィット型」システム



遠隔自動キット

- ・普及に向けた開発方針：現在、競合他社や一部の大手ゼネコン向けに開発されている遠隔自動化キットは非常に高額であるが、同社は多種多様なメーカーの建機に対応でき、かつ「安価に幅広く普及していくこと」を最大の目的として開発を進めています。
- ・期待される効果：中小土木現場やレンタル機

が混在する現場でも容易に導入・付け替ができるため、建設業界が直面している深刻な手不足の解消や、現場作業の安全性・生産性上に大きく寄与する将来性が示されました。



「ロボットアームの体験型」

3. おわりに

今回の見学では建設・仮設の概念を覆す、西尾レントオール様の「木造モジュール技術」と、地方の中小現場のDXを支える ORAM 様の「後付け遠隔化技術」という、持続可能な建設業界の未来を担う2つのイノベーションに触れる極めて有意義な機会となりました。

特に ORAM 株式会社様が掲げる「高額な自動化システムを、安価かつオープンな形で広く普及させる」という開発理念は、一部の先進企業に留まらず業界全体の働き方改革や生産性向上をボトムアップで実現させるものであり非常に強い感銘を受けました。本視察で得られた先進的な取り組みや知見を、今後の広報活動を通じて会員各社へタイムリーかつ有益な情報として広く発信できればと考えております。



JCMA 関西 編集委員



令和8年度 総会

一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部第15回通常総会は、令和8年5月18日（月）に大阪市中央区の大阪キャッスルホテルにおいて、団体会員126社（委任状含む）の出席により盛会の内に開催された。

関西支部の強みを生かしてさらなる発展を！

開会にあたっては、深川良一支部長から、ここ2～3年で急激に暑くなっている。支部としてさまざまな取り組みを進めるが、異常気象に対しても会員の皆さんと一体になり、何らかの貢献ができるよう努めたいと挨拶があった。



深川支部長挨拶

さらに、建設現場におけるカーボンニュートラルの取組も喫緊の課題であり、当協会では、国土交通省の「GX建設機械認定制度」に協力するとともに、「建設現場のCO₂可視化推進会議」を設置し、CO₂発生量を定量的に把握する手法とルールを検討している。支部においても各種講習会を通じて最新技術を習得できるよう務めているが、今後も会員皆様の協力の下、取り組んで頂きたいと述べられた。

i-Construction 2.0 を展開



本部・岩見業務執行理事

本部・岩見吉輝業務執行理事から会員各位に対し協会並びに支部活動についての支援、協力にお礼を述べられた。そして国土交通省では一昨年度より「i-construction2.0」をスタートさせICT、DXの取組を加速させており、建設業界における省人化、担い手不足に対応した、「人が少なくなっても施工できる技術」としてのオートメーション化も含め注目されている。さらに、地方の中小建設会社に対しては、何のためのICT導入なのかを考え、ものづくりの基本となる「生産技術」の普及を進めている。

令和7年度事業報告・決算報告の承認及び令和8年事業計画・収支予算を可決

総会の議事では、令和7年度事業報告、決算報告が行われ原案通りに可決された。令和7年度の建設機械施工技術検定試験の実施状況や、「建設技術展2025近畿」、「ふれあい土木2025」への出展などの情報化施工（ICT施工）の普及・促進活動の報告、現場見学会等の各部会活動報告がありました。

令和8年度の事業計画では、各部会・技術委員会の開催や「建設技術展2026近畿」、「ふれあい土木展2026」への出展の取り組み、近畿地方整備局との意見交換会の実施なども提案された。また、災害時における近畿地方整備局との協定に基づく協力体制の充実等に取り組むことも報告された。

総会後の講演では、『台風研究の最前線：航空機観測と台風制御』と題し、日本人としては初の航空機によるスーパー台風の直接観測に成功した経験を元に講演が行われた。講演では、台風や集中豪雨の発生・発達メカニズムの解明の取組について紹介があり、台風の人為的制御の可能性についてもコメントがあった。



講師：名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授
横浜国立大学 台風科学技術研究センター 副センター長
教授 坪木 和久 氏

永年団体会員表彰

一般社団法人日本建設機械施工協会団体会員等表彰規程に基づき、本部会長表彰の授与が行われ本部岩見理事から賞状が授与された。



支部団体会員（5社）	
会員期間 70 年	株式会社鶴見製作所
会員期間 60 年	株式会社櫻川ポンプ製作所
	前田道路株式会社
会員期間 40 年	近畿技術コンサルタンツ株式会社
会員期間 30 年	(一社)近畿建設協会
個人に対する表彰（2名）	
運営委員 7 年	待兼二郎 株式会社レンタルのニッケン
運営委員 7 年	村田朝彦 コベルコ建機株式会社

優良建設機械運転員等表彰

また、関西支部優良建設機械運転員等表彰規程に基づく受賞者の表彰式が行われた。技術者不足が言われている中、建設現場での今後の活躍が期待されるところである。今年度は、運転部門6名、整備部門は2名で、合わせて8名の方が受賞され、記念品や記念バッチが贈呈された。



運転部門（6名）

筧 守蔵	イノウエ道路管理株式会社
谷川 徹	田中基礎工業株式会社・推薦株式会社熊谷組
住本 隆敏	コベルコ建機株式会社
倉田 隆夫	株式会社斎藤組・推薦 株式会社大林組
川添 淳一	株式会社竹中工務店
柳楽 和輝	日本ロード・メンテナンス株式会社

整備部門（2名）

西尾 健一	株式会社サイガ
川端 聡	西尾レントオール株式会社

総会終了後懇親会を開催

総会終了後の懇親会は、深川支部長の挨拶で始まり、来賓の近畿地方整備局斎藤博之局長の乾杯のご発声によりスタートした。支部会員をはじめ部会・委員会関係者等が参加で盛大に開催された。

そして、大いに盛り上がる中、大西康之副支部長の中締めをもって懇親会を終了した。



斎藤局長



大西副支部長

令和7年度 建設業部会、リース・レンタル業部会 合同見学開催

2026年2月9日(月)に令和7年度建設業部会、リース・レンタル業部会の合同見学会を開催致しました。

令和7年度は協会に加盟して頂いている株式会社大林組様に協力を頂き大阪府枚方市の西日本ロボティクスセンターで見学会を実施。

大林組様の研究開発されている最新の技術をインキュベーションスタジアムや現場での危険作業を安全体感施設で見学させて頂きました。建設業部会13名、リース・レンタル業部会14名、事務局3名、計30名の参加となり、西日本ロボティクスセンターの概要と見学施設の説明を座学にて受講、その後2班に分かれてインキュベーションスタジアムと安全体感施設を見学致しました。



自動運転ホイールローダー

また、大林組様が開発された「スカイジャスター」や「サロゲート」も実際の機械を見学させて頂きました。

スカイジャスターは吊り荷の回転を制御する装置です。タワークレーン等の高所で行う吊り荷作業では風の影響を受けてしまい、物体を回転させると回転が高速なほどに姿勢が安定する「ジャイロ効果」の原理を活用して「回転している吊り荷を止める」「吊り荷の姿勢を保つ」「能動的に吊り荷を回転させる」の役割をすることができ作業効率のアップと安全性を確保している装置となっております。



自動運転バックホウ

インキュベーションスタジアムは2022年に西日本ロボティクスセンター内に、実証フィールドとして設立され無人化施工や自動運転の実験と検証が行われています。

見学では、バックホウによる掘削土砂のクローラードンプへの自動積み込みと、クローラードンプによる自動運搬、ホイールローダーによる土砂の自動積み込み等、省人化による生産性の向上や、遠隔操縦等による通信技術やモニタリング技術の検証と最新の技術をデモンストレーションにて見学させて頂きました。

昨今の激甚化する自然災害等では遠隔操縦、自立・自動運転技術が必要となり技術の革新や確証に向け日々取組まれているのを見学、体感させて頂きました。



スカイジャスター

高層ビルなどの建築現場では、吊り荷の落下が起きると重大な事故になってしまいます。

装置に開発は安全に施工を行う上で重要な技術と感じます。

サロゲートは建設機械の操作レバーに装着することで、遠隔からの無人化運転を可能にする遠隔操縦装置となり、コンパクトで容易に着脱できるため、災害地など人が乗車して入れない現場での無人化施工で活躍している装置で、近年、土砂災害が多く発生しており災害地で復旧・復興作業を行う作業員の2次災害を防ぐ為にも必要な装置です。



サロゲート装置付バックホウ

今回は狭隘な現場などで活用する小型の機種に装着したものを見学しましたが大型の機種まで取付けが可能な装置となっております。

安全体感施設では現場施工の安全教育施設として活用しており、安全管理のレベルアップを図る研修施設となっております。

仮設設備の安全教育施設として、型枠支保工やローリング足場を設置、玉掛け作業危険体感、電気作業危険体感、回転作業危険体感を実際の装置を使用し体験出来るようになっています。

高所作業体験では墜落制止用器具の転落時の、ぶら下がりを経験でき墜落制止用器具の必要性和安全フックの重要性を認識致しました。

屋外エリアにはバックホウでの重機危険エリアを体験するゾーンも設置されております。

また、VR 危険体感も用意されており高所作業での墜落の怖さも感じられるように、現場での作業に対する安全の重要性を体感し、安全管理の意識向上に努めていると実感しました。



高所作業体験施設



電気作業危険装置

今回、ご尽力頂いた株式会社 大林組 西日本ロボティクスセンターの皆様にはご多忙のなか見学会を開催頂き、厚く御礼申し上げます。

「緊急災害応急対策業務に関する協定」に関わる 災害対策用機械の現場対応訓練

2026年5月29日（金）に「緊急災害応急対策業務に関する協定」に関わる災害対策用機械の現場対応訓練が国土交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所で開催され、（一社）日本建設機械施工協会関西支部、（一社）河川ポンプ施設技術協会の2団体から63名、当関西支部からは57名が参加しました。

応急復旧活動について（座学）

畿防災・技術センターにて、矢野 近畿技術事務所長の開会挨拶より、近畿地方整備局 防災室の伊藤防災室長より「災害対策について」の講義を受講。

昨今の自然災害の変化や国土交通省の災害に対する対策、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の概要説明や令和7年6月に施行された改正災害



N ラウンジ

対策基本法に基づき、専門的な知識・経験を有する民間人材に活躍してもらい、TEC-FORCE 予備隊員制度、建設業等の民間企業である TEC-FORCE パートナー、学識経験者である TEC-FORCE アドバイザーなど産官学での連携の枠組みを新設、応援体制の構築に向けた取組みを説明頂きました。

東北地方整備局発行の東日本大震災の実体験に基づく災害対応初動指揮心得では、

「備えていたことしか、役に立たなかった。」

備えていただけでは、十分ではなかった。」

この言葉は配布資料の最終ページに記載されており、多様な状況を想定し備えは必要だが災害対応訓練等への参加で普段より防災への意識が求められると感じました。

災対機械の操作訓練

午後からは屋外で災害対策用機械の操作訓練となり、各班に分かれ、排水ポンプ車、照明車、対策本部車、無人化施工機械（分解型バックホウ）の訓練を順番に実施。



操作訓練説明風景



排水ポンプ訓練

今年度より過去に操作訓練へ参加された方と初めての方に振分けられており、経験者には実務的な訓練内容になっておりました。

例えば、経験者への排水ポンプ車の操作訓練では、実際の災害時を想定し4人1組で近畿技術事務所内にある点検講習用堤防を使用し、フロート型水中ポンプの設置訓練。



排水ポンプ設置訓練

排水用ホースを堤防の法面へ設置し、水流による法面への影響を説明して頂きました。

また水中ポンプの水量や水圧を実際に体験出来るよう大型の水槽での実演もあり、より実務的な内容の操作訓練を体験出来たと感じております。

操作訓練の終了後、講習会場へ移動しアンケートの記入、アンケートでは次年度の訓練をどのような内容にすれば良いかと参加者より意見を求め有事の際により良い対応する為に、官民連携で取組まれている姿勢を強く感じました。



排水ポンプ作動実施

最後に、近畿地方整備局 企画部 菊池施工企画課長より閉会の挨拶で終了。

昨今、線状降水帯の発生頻度も多くなってきており豪雨での災害事例も増えております。都市部では下水処理能力の想定を超える雨量も頻繁に発生しています。河川や排水溝、下水道への流量も増え、災害は「いつ、どこで」起きるかも分かりません。

前述の東日本震災での教訓を防災・減災への意識を持つことが重要だと実感致しました。

日本建設機械施工協会 関西支部の会員企業様には、今後も災害対策用機械の現場対応訓練へ参加して頂き共に防災・減災への取組みを出来ればと思います。

令和8年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験

第一次検定・第二次検定（筆記）を実施

令和8年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定（第一次検定・第二次検定（筆記））試験は、令和8年6月21日（日）全国一斉に行われました。大阪会場は、今年度も大阪電気通信大学寝屋川キャンパスで行いました。

令和6年度制度改正により、第二次検定の受検申請



学科試験の様子

第二次検定試験

令和8年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）は、令和6年度制度改正からの3年目となります。昨年度に比べ、1級、2級ともに増減はあるものの、合計するとほぼ横ばいです。下記の日程

【小野会場】

令和8年8月25日（火）～ 8月26日（水）

【明石会場】

令和8年9月6日（日）～ 9月8日（火）

表-2 令和8年度（1級）第二次検定試験受検者数

1級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	11	40	55	5	111
実受検者	11	39	54	4	108
受検率（%）	100	98	98	80	97

表-3 令和8年度（2級）第二次検定試験受検者数

2級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	10	283	9	18	320
実受検者	10	274	9	16	309
受検率（%）	100	97	100	89	97

は第一次検定の合格者に限り受付を行い、これまで行っていた第一次検定の合格を前提とした第二次検定の同年度内での申請受付は取りやめることになって3年目ですが、受検者数は、1級、2級ともに昨年並みで、1級と2級を合わせて959名でした。

なお、2級における受検種別の内訳は、圧倒的に2種が多く、続いて1種、4種の順となりました。また、相変わらず3種の受検者は1桁となりました。

表-1 令和8年度第一次検定試験受検者数

	1級	2級							
		共通	種別（延人数）						計
			1	2	3	4	5	6	
受検予定者	405	89	46	555	3	49	10	12	675
実受検者	359	572	32	505	1	45	8	9	600
受検率（%）	89	91	70	91	0	92	80	75	89

で実施されました。

今年度の第二次検定の実受検者数は、令和8年度分の学科試験合格者により、1級と2級の合計で417名となり、受検種別では、第2種が圧倒的に多く、今年度の特徴として第4種、第6種の受検者数がこれまでと比べ増加しました。



第2種の検定試験状況

種別	実技試験で使用する建設機械
第1種	ブルドーザー
第2種	油圧ショベル
第3種	モーター・グレーダー
第4種	ロード・ローラー
第5種	アスファルト・フィニッシャー
第6種	杭打機

新入会員紹介

奈和建設株式会社



会社概要

会 社 名：奈和建設株式会社

代 表 者：代表取締役 乾 弘人

所 在 地：[本社]

〒648-0037 和歌山県橋本市賢 1114-1

TEL：0736-32-3733

[和歌山支店]

〒649-6338 和歌山県和歌山市井ノ口 540-3

TEL：073-488-3667

[大阪支店]

〒536-0022 大阪府大阪市城東区永田 4-15-6

奈和ビル 5 階 TEL：06-6955-8834

設 立：平成 7 年 6 月 14 日

事業内容：土木・建築 総合請負業

会社紹介

弊社は和歌山県橋本市を拠点に、土木・建築の総合請負業として地域社会の発展に寄与してまいりました。創業以来、道路・河川などの社会インフラ整備から公共建築物・民間施設の施工まで幅広く事業を展開しております。

近年は、土木部・建築部に加え、品質管理を担う試験部、ICT施工を推進するICT事業部、建材部、砕石事業部、運輸部、不動産事業部など、多様な専門部門を整備し、設計から施工、アフターメンテナンスまで一貫したサービス体制を構築しております。特にICT施工の導入支援や3Dデータ活用など、次世代の建設業に向けた技術革新を進め、業界の生産性向上にも寄与しております。

また、ISO9001・ISO14001の認証取得、健康経営優良法人の認定など、品質・環境・働きやすさに関する取り組みを強化し、社員が挑戦し続けられる企業風土づくりを進めております。

こうした取り組みを通じて、今後も「高品質」「丁寧」「サービス」を徹底的に追求し、変化する社会ニーズを先取りしながら、地域社会に貢献し続ける企業として成長を続けてまいります。

大和建設株式会社

会社概要

会 社 名：大和建設株式会社

代 表 者：久禮 和弘

所 在 地：[本社]

〒596-0816 大阪府岸和田市尾生 523-2

設 立：昭和 45 年 10 月

事業内容：・土木工事に関する請負・施工

・重機土木工事

・一般貨物自動車運送事業 近運自貨第 1805 号

・産業廃棄物収集運搬業（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・滋賀県・三重県・愛知県）

会社紹介

弊社は昭和35年、大阪府岸和田市に「久禮組」として創業し、昭和59年6月「大和建設株式会社」と社名変更して以来、現在に至るまで土木工事を専門として営業して参りました。

なかでも、重機土木工事（重機土工）を得意としており、主に建設機械&ダンプトラックを使用する土工を中心に、造成工事・築堤盛土による法面整形、都市土木な

ど、さまざまな規模の土工事に携わってまいりました。

また、ICT施工にも積極的に取り組んでおり、約7年前からICT建機を導入しています。

2025年9月には、コマツ建機の「PC200i-12」

を新たに導入し、生産性向上・省力化を目的としたICT施工に対応し、より安全で効率的な施工を努めております。

「社会から必要とされる会社」を経営理念に掲げ、社員一同「安全第一」を徹底し、「技術力向上」を目指し、お客様に信頼される施工を目指して日々努力しております。

このたび、これまで以上に建設機械施工およびICT施工に関する知識・技術を深め、業界全体で問題視されている担い手不足の課題解決を目指して、日本建設機械施工協会関西支部に入会させていただきました。

今後は、会員の皆様との交流や情報交換を通じて、より一層の技術力向上に努めてまいりたいと考えております。皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。



支部行事報告

支部行事報告（4月）

■支部監査

月 日：4月20日（月）

場 所：関西支部 会議室

出席者：田口定一支部監査役、田中勝彦支部監査役

内 容：令和7年度決算報告及び関係書類に基づく
監査の実施

■令和8年度第1回企画部会

月 日：4月22日（水）

場 所：関西支部

出席者：松本清志企画部会長以下5名

議 題：① 令和7年度事業報告（案）及び
決算報告（案）の件
② 優良建設機械運転員等表彰の件
③ 令和8年度本部会長表彰の件
④ 会員の推移
⑤ 総会後の講演会について
⑥ その他

■建設用電気設備特別専門委員会（第511回）

月 日：4月22日（水）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

議 題：① 競争法コンプライアンス規定、
プライバシーポリシー確認
② 委員会総会
（1）2026年度委員会名簿確認
（2）委員会申し合せ事項確認
（3）2025年度活動報告
（4）2026年度役員選出
（5）2026年度活動計画審議
③ 定例委員会
（1）前回議事録 確認
（2）JEM-TR236 改正審議
（3）その他

■令和8年度第1回運営委員会

月 日：4月24日（金）

場 所：大阪キャッスルホテル

出席者：深川良一支部長以下26名

議 題：① 令和7年度事業報告（案）及び
決算報告（案）の件
② 令和8・9年度役員改選の件
③ 優良建設機械運転員等表彰の件
④ 令和8年度会長表彰について
⑤ 支部総会後の講演について
⑥ その他

支部行事報告（5月）

■支部通常総会

月 日：5月18日（月）

場 所：大阪キャッスルホテル

出席者：深川良一支部長以下126名

議 題：① 令和7年度事業報告及び決算報告の件
② 令和8年度事業計画及び収支予算の件
③ 本部事業概要報告
④ 令和8年度会長表彰
⑤ 優良建設機械運転員等表彰

講 演：『台風研究の最前線：航空機観測と台風制御』

講 師：名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授
横浜国立大学 台風科学技術研究センター
副センター長 坪木 和久 氏

■令和8年度第1回広報部会

月 日：5月27日（水）

場 所：関西支部

出席者：木村泰男広報部会長以下6名

議 題：① 「JCMA 関西」第125号について
② 確認事項

■「緊急災害応急対策業務に関する協定書」に基づく 操作訓練講習会

月 日：5月29日（金）

場 所：近畿地方整備局近畿技術事務所

議 題：① 災害対策用機械による応急復旧活動に
ついて
② 災害対策用機械操作訓練
③ 無人化施工機械操作訓練

支部行事報告（6月）

■令和8年度建設機械施工技術管理技術検定試験 監督者打合せ

月 日：6月16日（火）

場 所：クレオ大阪西

議 題：① 試験監督要領について
② その他留意事項

■令和8年度建設機械施工技術管理技術検定試験

月 日：6月21日（日）

場 所：大阪電気通信大学寝屋川キャンパス

受検者：1級（一次359名、二次（筆記）71名）
2級（一次（共通）572名、一次（種別）
1種32名、2種505名、3種1名、4種45名、
5種8名、6種9名）、二次（筆記）315名

支部行事報告（7月）

■建設用電気設備特別専門委員会（第512回）

- 月 日：7月15日（水）
場 所：中央電気倶楽部 会議室
議 題：① 競争法コンプライアンス規定、
プライバシーポリシー確認
② 前回議事録確認
③ 見学会・見学先について候補の選出
④ JEM-TR236
（建設工事用 400V 級電気設備施工指針）
規格調整会議後見直し審議
⑤ その他

■メンテナンス技術委員会

- 月 日：7月17日（金）
場 所：関西支部
出席者：藤澤副支部長以下5名
議 題：活動方針について

■令和8年度 1・2級建設機械施工管理技術検定 （第二次検定）試験監督者打合せ

- 月 日：7月22日（水）
場 所：関西支部
出席者：児玉孝司事務局長以下6名
議 題：① 実地試験実施要領について
② その他

■メンテナンス技術委員会

- 月 日：7月27日（月）
場 所：関西支部
出席者：藤澤副支部長以下5名
議 題：活動方針について

■令和8年度 1・2級建設機械施工管理技術検定 （第二次検定）試験監督者打合せ

- 月 日：7月30日（木）
場 所：関西支部
出席者：児玉孝司事務局長以下8名
議 題：① 実地試験実施要領について
② その他

支部行事報告（8月）

■令和8年度 広報部会

- 月 日：8月20日（木）
場 所：西尾レントオール南港及び
5GX LAB OSAKA

- 出席者：木村泰男広報部会長以下5名
議 題：西尾レントオール工場見学

■令和8年度 1・2級建設機械施工管理技術検定試験 （第二次検定）

- 月 日：8月25日（火）～26日（水）
場 所：キャタピラー教習所株式会社
延受検者数：116名（1級18名、2級98名）

支部行事報告（9月）

■令和8年度 第2回広報部会

- 月 日：9月2日（水）
場 所：関西支部
出席者：木村泰男広報部会長以下5名
議 題：① 「JCMA 関西」第125号について
② 今後行事予定の確認

■令和8年度 建設機械施工管理技術検定（第二次検定）

- 月 日：9月6日（日）～9月8日（火）
場 所：コベルコ教習所株式会社
延受検者数：288名（1級105名、2級183名）

■建設用電気設備特別専門委員会（見学会）（第513回）

- 月 日：9月8日（火）
場 所：Torch Tower B 棟（東京都千代田区大手町）
議 題：見学会（Torch Tower B 棟 建設現場見学・
温故創新の森 NOVARE 各種施設見学・
AI ロボット講演会）

■「建設技術展 2026 近畿」主催・共催者会議（第2回）

- 月 日：9月17日（木）
場 所：大阪マーチャングイズ・マートビル
出席者：児玉事務局長
議 題：① 「建設技術展 2026 近畿」のプログラム及び
全体概要について
② 開会式出席依頼について
③ 注目技術賞の審査員について
④ 当日の動員体制について
⑤ その他

■令和8年度施工技術報告会 第1回運営会議 （WEB 会議）

- 月 日：9月30日（水）
場 所：関西支部
参加者：児玉事務局長以下10名
内 容：令和8年度施工技術報告会の
開催概要について

新規広報部会員紹介

このたび、(一社)日本建設機械施工協会関西支部の広報部会委員として就任することになりました株式会社熊谷組関西支店の藤本昭彦です。

(一社)日本建設機械施工協会関西支部の広報部会は関西地区における建設機械化の推進、最新技術の普及を目的に会員間の情報の共有・交流を積極的に進めているところです。最近の社会情勢、特に社会資本のおかれている課題として、政府の政策方針にもあるように防災・減災、国土強靱化や予防保全型メンテナンスへの本格的な転換を筆頭に多くの課題が山積している状況です。

令和8年を見ても熊本地震、千葉豪雨、石川・福井豪雨が立て続けに発生し大きな被害が発生しました。また、インフラにおいては埼玉県八潮市の道路陥没事故は記憶に新しいところです。

(一社)日本建設機械施工協会では私たちを取り巻くこうした多くの課題に対して建設機械施工の分野を通じて最新の知見・技術を会員の皆様をはじめ多くの方々に紹介するとともに普及に尽力しているところです。

今回、広報部会の委員として微力ながら皆様方のお役に立てればと願っております。よろしくお願いいたします。



編集後記

朝晩の風に、少しずつ秋の気配を感じる頃となりました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏も厳しい猛暑が続く一方、各地で線状降水帯による豪雨が発生するなど、自然災害の脅威を改めて感じる季節となりました。復旧・復興や防災活動の最前線でご尽力されている皆様に、心より敬意を表します。

今回の巻頭言では、近畿地方整備局 近畿技術事務所長 矢野様より、建設業界が抱える担い手不足や自然災害への対応、働き方改革、そしてICT施工やBIM/CIM、遠隔・自動施工などのデジタル技術についてお話をいただきました。これからの建設業界には、現場の技術とデジタル技術の双方を理解し、課題解決につなげられる人材の育成が求められています。

また、最新技術を学ぶため、西尾レントオール咲洲R&D国際交流センターと5G X LAB OSAKAを見学しました。木造モジュール建築「モリーナ」や、建設機械の遠隔操作を可能とする後付け型システムなどを実際に見学し、人手不足の解消、安全性・生産性の向上につながる先進技術を体験しました。

さらに、災害対策用機械の現場対応訓練では、排水ポンプ車や照明車、無人化施工機械などの操作訓練を実施しました。実践的な訓練を通じ、防災・減災への備えと、災害時における官民連携の重要性を改めて認

識する機会となりました。

今後も、広報活動を通じて建設業界の発展や地域社会の安全・安心に貢献できる情報を、会員の皆様へ発信していきます。

最後になりましたが、今回、貴重な見学・訓練の機会をご提供くださった関係者の皆様、ならびに業務や現場で大変お忙しい中、見学会・訓練の模様を熱のこもった報告記事として執筆いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

特に、矢野事務所長をはじめ、今回ご執筆いただいた皆様には、改めて厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

編集部一同

原稿をお寄せください

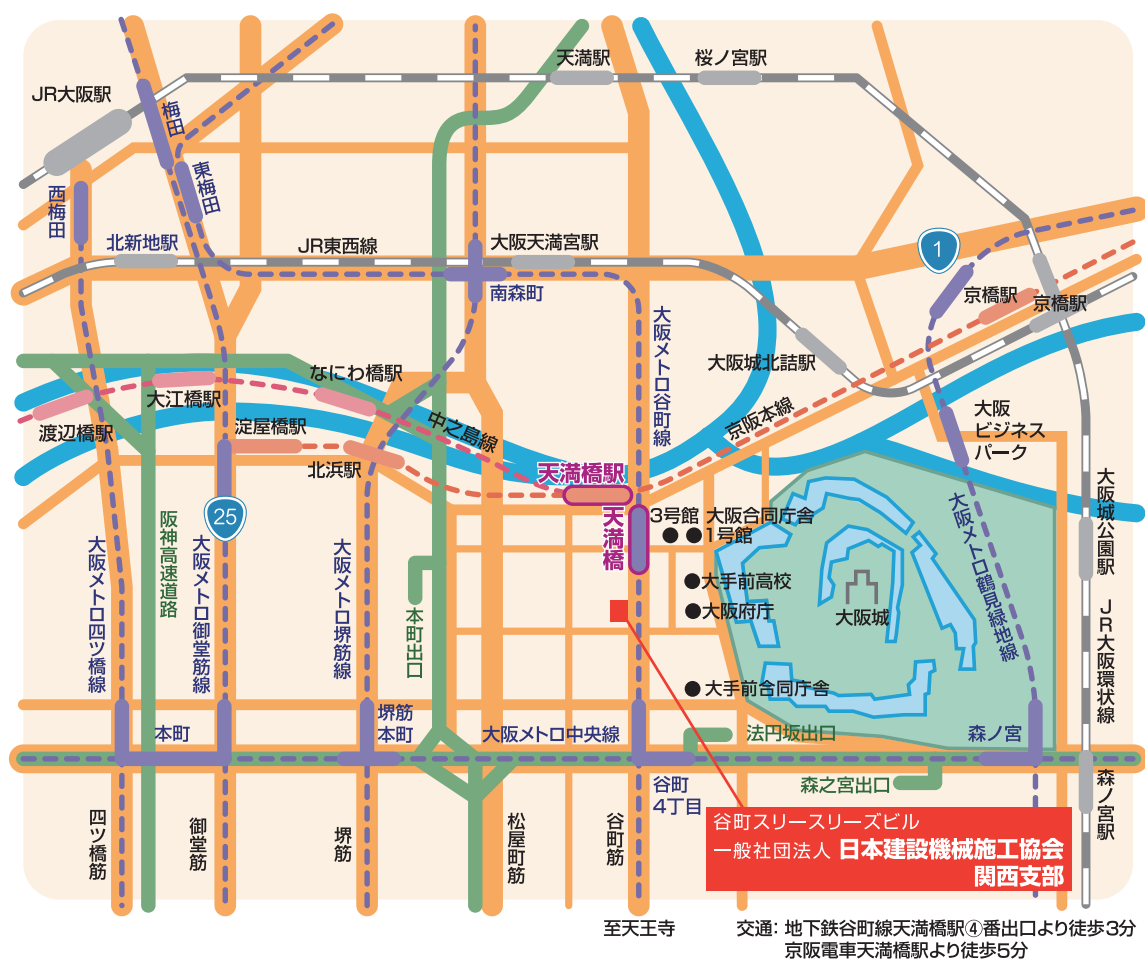
『JCMA関西』に原稿をお寄せください。
内容はなんでも結構です。

新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、
随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、など…

送り先：一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部

ておご
い待感
まち意
すし見
しを・





一般社団法人 日本建設機械施工協会関西支部

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル

TEL: 06 (6941) 8845

FAX: 06 (6941) 1378

e-mail: jcmakansai@jcma-kansai.jp

<https://jcma-kansai.jp/>